

令和6年度 行政評価 進捗管理シート

(第5次総合計画 前期基本計画 57-58 ページ)

政策名	3 誰もが等しく、生涯輝き続けるために。(人権・協働・文化)
施策名	12 人権・多様性の尊重

★ 目指す姿

誰もが個人として等しく尊重され、自らの意思によって個性と能力を発揮できる社会が実現している。



■ 施策の主な取り組み

① 人権啓発の推進と学習機会の提供

人権に関する啓発活動や学習機会の提供を通じて、市民の人権への理解や認識の向上を図ります。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値			
				R6	R10	R14	
市民集会参加者数	人	「人権を考える香芝市民集会」の参加者数	150	180	220	250	
人権啓発事業認知度	%	人権に関する市民アンケートで「市が実施する人権啓発事業を知っている」と回答した人数/全回答者数(事業参加者対象)	64	70	80	90	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合戦略
①-1	人権啓発事業	香芝市人権教育推進協議会や各種団体と連携し、広報活動やセミナー等を開催し、市民へ人権に関する正しい知識や情報を提供します。	—

前年度実績値 (R5)	今年度の進捗				担当部署
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成率 (R6年度比)	
150	180	300	300	166.7%	市民環境部 市民協働課
62.9	70	60.1	58.2	83.1%	市民環境部 市民協働課

② 男女共同参画によるまちづくりの推進

男女共同参画に関する啓発活動や学習機会の提供を通じて、市民の男女共同参画意識のさらなる醸成・高揚を図ります。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値			
				R6	R10	R14	
市職員の管理職に占める女性割合	%	市職員の女性管理職数/市職員の管理職数	29.7	30	30	30	
市の審議会への女性委員登用率	%	審議会等における女性委員数/審議会等における委員数	26.4	30	30	30	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合戦略
②-1	男女共同参画推進事業	男女共同参画社会への理解を深めるため、父子を対象とした体験型の講習会の実施や市民を対象とした学習会等を開催します。また、関係機関と連携し、女性の就労支援に係るセミナーの実施や相談窓口を開設します。多様な視点を取捨方針に取り入れるため、市の審議会への女性登用を促します。	●

前年度実績値 (R5)	今年度の進捗				担当部署
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成率 (R6年度比)	
37.3	30	40.0	40.0	133.3%	市民環境部 市民協働課
26.1	30	25.6	25.7	85.7%	市民環境部 市民協働課

■ 実施する主な事業の評価

No.	事業名	今年度の事業評価			今後の方向性		
		実績と課題	担当課 評価 (A/B/C)	3視点	方向性の内容(改善策) ※3視点評価の点数(100点満点)が65点以下の視点については、 現状を改善し、高めていくための方策等について記入	担当部署	
				必要性 有効性 効率性	成果の方向性 コストの方向性		
①-1	人権啓発事業	【実績】 ・くらしを考える講座を6回(4月・6月・7月・9月・12月・2月)開催した。参加者数:511名(市民集会除く) ・市民集会を7月に開催した。参加者数:300名 【課題】 ・人権啓発事業認知度につき、昨年度から下がり、目標達成には至らなかったことから、より多くの人に人権啓発事業について知り、参加してもらえよう、周知方法や講演内容について検討が必要。	B	56 67 72	現状維持 現状維持 現状維持	【成果の方向性】 ・年間6回行っているくらしを考える講座を4回に縮小し、1回の参加者数を増やす。 ・子ども対象の回を1回設け、対象を広げる。 【コストの方向性】 ・講師報酬が高くなっていることから、回数を減らしても同様のコストがかかると思われる。	市民環境部 市民協働課
②-1	男女共同参画推進事業	【実績】 ・男性いきいきセミナーを2回(8月、11月)開催した。参加者数:42名 ・マザーズセミナーを2回(7月、3月)開催した。参加者数:30名(見込) ・男女共同参画推進委員会を2回(8月・2月)開催した。 【課題】 ・参加人数は昨年度とほぼ同様であるが、今後より多くの人に参加してもらえよう日時や場所、周知方法等を検討する。	A	80 75 74	現状維持 現状維持 現状維持	【成果の方向性】 ・共働きが家庭が増加する一方で、家事の役割分担などまだまだ性別の固定的概念が残っていたり、多様な生き方を尊重しなければならぬことから、現状の方向性で事業を維持していく。 【コストの方向性】 ・事業実施後のアンケートでも性別の固定的概念や無意識の偏見に対し理解できたとの意見があり、引き続き講演会等の開催に努める。	市民環境部 市民協働課



■ 施策の方向性(改善策)

次年度の方向性	現状の取組により一定程度の効果が出ており、引き続き人権や多様性を尊重する意識を高める必要があることから、現状の方向性で施策を維持していく。
---------	---

担当課評価		成果の方向性		コストの方向性	
A	1 事業	拡充	0 事業	拡大	0 事業
B	1 事業	現状維持	2 事業	現状維持	2 事業
C	0 事業	縮小	0 事業	縮小	0 事業
		休廃止	0 事業	休廃止	0 事業

令和6年度 行政評価 進捗管理シート

(第5次総合計画 前期基本計画 62-63 ページ)

政策名	3 誰もが等しく、生涯輝き続けるために。(人権・協働・文化)
施策名	13 地域コミュニティの醸成・活性化

★ 目指す姿

市民一人ひとりが「まちの担い手は自分自身」という自治意識を持ち、市民みんなが地域に誇りと愛着を持っている。



■ 施策の主な取り組み

① 自治会活動の支援

円滑な自治振興の実現のため、地域コミュニティの核である自治会の安定的な運営を支援します。また、自治会の協力のもと、地域の安全安心に関わる設備等の設置を促進します。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値			
				R6	R10	R14	
自治会加入率	%	自治会加入世帯数/4月1日時点の世帯数	87.2	88	90	92	
自治連合会と地域団体との協働事業実施回数	回	自治連合会と地域団体との協働事業実施回数	0	1	2	3	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合戦略
①-1	自治会活動支援事業	自治会活動や防犯カメラ・防犯灯等の設備の整備に対して、補助金の交付等の支援を行います。また、自治会及び自治連合会と連携し、自治会未加入者への加入促進を図るとともに、自治会と各種地域団体の連携を促進し、地域活動の活性化を図ります。	●

前年度実績値 (R5)	今年度の進捗				担当部署
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成度 (R6年度比)	
83.5	88.0	82.8	82.8	94.1%	市民環境部 市民協働課
0	1	0	0	0.0%	市民環境部 市民協働課

② 市民公益活動団体の支援

ボランティアやNPO等の市民公益活動団体の地域での活動を支援することで、地域の活性化を促進します。また、市民公益活動団体同士が繋がり、発展できるように、コーディネーターの役割を担います。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値			
				R6	R10	R14	
まちづくり提案活動支援事業補助金申請件数	件	まちづくり提案活動支援事業補助金の申請件数	19	25	25	30	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合戦略
②-1	市民公益活動団体支援事業	市民公益活動団体の活動に対して、補助金の交付等の支援を行います。また、活動報告会や市民主体のイベントを実施することで、団体同士のつながりや市民や市内事業者等、あらゆる主体との相互交流の機会を設け、市民活動のさらなる活性化を図ります。	●

前年度実績値 (R5)	今年度の進捗				担当部署
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成度 (R6年度比)	
20	25	10	10	40.0%	市民環境部 市民協働課

■ 実施する主な事業の評価

No.		事業名	今年度の事業評価		今後の方向性			担当部署
今年度の事業実施計画			実績と課題	担当課 評価 (A/B/C)	3視点	所管判定	方向性の内容(改善策) ※3視点評価の点数(100点満点)が65点以下の視点については、 現状を改善し、高めていくための方策等について記入	
					必要性	成果の方向性		
					有効性	コストの方向性		
①-1	自治会活動支援事業	【実績】 ・輸入者や自治会館等に自治会加入促進のパンフレットや啓発品を配布した。 ・自治会が実施する防犯灯・防犯カメラ・通信設備・集会所等の整備事業について、自治連合会総会や定例会の順に自治会長へ活用を促すとともに、適切に補助を行った。 【課題】 ・自治連合会と地域団体との協働事業に係る実施方法について検討を重ねたが、自治連合会の会務計画上、実施できる余地がなかった。	B	100	現状維持	【成果の方向性】 ・自治会の加入率が減少してきているが、自治会は地域に根ざした互助の基盤となる組織なので、自治会活動を継続していけるよう引き続きパンフレット配布を行い、加入率向上に努める。 ・地域住民の福祉の増進や自治会業務の効率化及び負担の軽減を支援するために、引き続き各種補助事業の利用促進に努める。 【コストの方向性】 ・引き続き、自治会活動や自治会業務の効率化及び負担の軽減を支援するため、現状維持。	市民環境部 市民協働課	
				72	現状維持			
				85	現状維持			
②-1	市民公益活動団体支援事業	【実績】 ・補助金申請は10団体10事業の応募があった。 ・スキルアップセミナーを2回開催した。参加者数:30名(見込) 【課題】 ・行政提案型の事業について、事業内容の調整を適切に行えるよう市民団体とテーマ担当課に周知していく必要がある。	B	75	現状維持	【成果の方向性】 ・さまざまな市民団体が活発に活動することでまちの活性化につながることから、まちづくり提案活動支援事業は今後も継続していく。 ・説明会だけでなく、申請時の個別相談など現在対応していることを継続する。 【コストの方向性】 ・継続して事業を実施していく必要があるため、現状維持。	市民環境部 市民協働課	
				45	現状維持			
				75	現状維持			

■ 施策の方向性(改善策)

次年度の方向性	
	・引き続き、自治会活動や防犯カメラ・防犯灯等に対する補助金の交付等の支援や、自治会加入率向上の啓発事業を行う。 ・まちづくり提案活動支援事業の周知について、引き続きSNS等の活用を継続する。

担当課評価		成果の方向性		コストの方向性	
A	0 事業	拡大	0 事業	拡大	0 事業
B	2 事業	現状維持	2 事業	現状維持	2 事業
C	0 事業	縮小	0 事業	縮小	0 事業
		休廃止	0 事業	休廃止	0 事業

令和6年度 行政評価 進捗管理シート

(第5次総合計画 前期基本計画 64-65 ページ)

政策名	3 誰もが等しく、生涯輝き続けるために。(人権・協働・文化)
施策名	14 文化芸術の振興・多文化共生

★ 目指す姿

多種多様な文化活動が活発に行われ、さまざまな文化が共生する、個性豊かなまちが形成されている。



■ 施策の主な取り組み

① 文化の発信・創造・交流の支援

多くの市民がさまざまな文化に触れ、多様な見識や価値観を養うことのできる機会を創出します。また、市民の自主的・創造的な文化活動を支援し、文化振興につなげます。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初	目標値			
			(R1)	R6	R10	R14	
ふたかみ文化センター稼働率	%	年間稼働枠数/年間利用可能枠数	44.2	45	48	50	
ふたかみ文化センター利用者数	人	ふたかみ文化センターの利用者数	89,790	97,000	105,000	108,000	
地域交流センター稼働率	%	年間稼働枠数/年間利用可能枠数	23.6	25	30	35	
地域交流センター利用者数	人	地域交流センターの利用者数	48,620	55,000	66,000	77,000	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合評価
①-1	文化施設管理・運営事業	指定管理者制度による文化施設の維持管理を行い、効率的な運営体制を構築します。また、施設の機能性の向上やイベント開催を通じて、市民の文化活動を促進します。	●
①-2	地域交流センター管理・運営事業	指定管理者制度による地域交流センターの維持管理を行い、効率的な運営体制を構築します。また、施設の機能性の向上やイベント開催を通じて、地域での市民交流を活性化します。	●

② 多文化理解と国際交流の推進

国際理解を通じて、さまざまな文化の在り方や考え方、価値観、感じ方の違いを認め合える風土を醸成します。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初	目標値			
			(R1)	R6	R10	R14	
国際交流事業実施回数	回	国際交流事業の実施回数	2	3	4	4	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合評価
②-1	文化・国際交流活動事業	国際交流活動を行っている市民、地域団体、事業者等と連携し、セミナーやイベント等を開催します。	●

■ 実施する主な事業の評価

No.	事業名	今年度の事業評価	担当課 評価 (A/B/C)	3視点 必要性 有効性 効率性	所管判定 成果の方向性 コストの方向性	今後の方向性 ※3視点評価の点数(100点満点)が65点以下の視点については、 現状を改善し、高めていくための方策等について記入	担当所管
今年度の事業実施計画		実績と課題					
①-1	文化施設管理・運営事業	◎文化施設の運営、維持管理 他 【実績】 ・施設の運営については、指定管理者と随時の調整や年度4回の連絡調整会議により情報共有、協議を行っている。指定管理者による講座、イベント、コンサート等については、多種多様に企画した上で、広報等による周知も実施している。利用者のアンケート結果等についても好評であるので、引き続き市民に文化・芸術に触れる機会を創出いただけるよう連携して進めていく。 ・文化施設の維持管理については、全館共同設備LED化を進めており、今年度末に完了予定。市民会館のプロジェクト、有孔ボードの更新を実施。また電話交換機の更新も今年度末に完了予定。 ・次期指定管理者の選定を実施し、現指定管理者を来年度以降も3年間、引き続き指定することになった。 【課題】 ・稼働率、利用者数とも、微減となっている。 ・施設は築34年経過し、全体に老朽化しているが、特に設備の老朽化が進んでおり、利用者にとって満足度の高い施設運営となっていない。公共施設再編の動向と協議しながら、施設の更新を図っていく必要がある。 ◎かしばアートweeeeeeek(美術展覧会) 【実績】 今年度で3回目の開催となるが、美術展覧会では144品の出品、569名の来場者があった。チャレンジアート(誰か1人の作品展)や指定管理者や図書館、博物館と協働した文化芸術イベントを開催。 【課題】 美術展覧会は、ふたかみ文化センター閉館工事期間であったことから、昨年同様公民館と文化センター2施設にまたがって開催。アンケートや会場周りの移動が不便という声もあり、次年度はふたかみ文化センター1施設開催を検討している。	A	72	現状維持	【成果の方向性】 文化施設については、老朽化に対応する必要があるが、施設の複合化に関する方針により、今後の対応が異なることもあり、その状況により臨機応変に対応が必要となる。 ◎かしばアートweeeeeeek(美術展覧会)は、昨年開催後、好評であり、文化芸術に対する市民のニーズも高いことから、引き続き事業内容を改善しながら指定管理者とともに事業を進めていく。現在中央公民館と2箇所開催である美術展覧会については、来年度の利便性向上のため、ふたかみ文化センター1施設で開催を検討し、来場者増を図っていく。 【コストの方向性】 文化施設の維持管理については老朽化に対応する必要があるためコスト増の方向性である。 ◎アートweeeeeeekについてはコスト維持を図りながら事業内容の更新、見直しも行う。 指定管理については、物価、人件費高騰により指定管理料が上昇となるため、コスト増の方向性である。	教育部 生涯学習課
				72	現状維持		
				64	現状維持		
①-2	地域交流センター管理・運営事業	【実績】 ・指定管理者による施設の運営、維持管理が適正に行われた。 ・利用者数は目標値を上回っており、また、昨年より実施している自主事業(子ども食育)を継続して実施したことにより、利用促進が図られた。 ・避難器具等設置工事は年度末に完了予定。 【課題】 ・他施設と比較すると比較的新しい施設ではあるが、供用開始から7年が過ぎ、予防的観点をもった日常点検を行う必要がある。	A	95	現状維持	【成果の方向性】 施設の設備目的である「地域住民の相互交流を促進」について、地域団体としての強みを活用して令和6年度より新たな自主事業に取り組んでいただいている。 【コストの方向性】 供用開始から6年が過ぎ、他の施設と比較すると新しい施設ではあるが、予防的観点をもった日常点検によりコスト維持に努める必要がある。	市民環境部 市民協働課
				85	現状維持		
				90	現状維持		
②-1	文化・国際交流活動事業	【実績】 ・国際交流セミナーを2回(8月、1月)開催した。参加人数:28名 【課題】 昨年度のCIRの退任に伴い、今年度は開催回数や発信数が減少したため、少ない回数でより多くの人に発信できるように、周知方法や開催内容について検討が必要。	A	75	現状維持	【成果の方向性】 市民の国際理解・国際交流を促進するため、国際交流啓発セミナーを継続して実施するが、令和5年7月末のCIR退任に伴い、昨年度は4回開催しているが2回に縮小する。 【コストの方向性】 講師回数は減少するが、昨年度まではCIRが講師として講座を開催していたので、講師謝礼がなかったため現状維持。	市民環境部 市民協働課
				59	現状維持		
				82	現状維持		
国際交流セミナーの開催(年2回を予定)							

■ 施策の方向性(改善策)

次年度の方向性	
・目指す姿である「多種多様な文化活動が活発に行われる」ことを実現するため、指定管理者との連絡調整を図りながら、ハード、ソフト両面での充実を図っていく。 ・引き続き指定管理者との連携を取り、適切な事業や自主事業を通じて、地域住民の相互交流を促進する。 ・国際交流セミナーは昨年度と同様、満足度は約9割となっていたため、現状の方向性で施策を維持していく。	

担当課評価	
A	3 事業
B	0 事業
C	0 事業

成果の方向性		コストの方向性	
拡充	0 事業	拡大	0 事業
現状維持	3 事業	現状維持	3 事業
縮小	0 事業	縮小	0 事業
休止止	0 事業	休止止	0 事業

令和6年度 行政評価 進捗管理シート

(第5次総合計画 前期基本計画 66-68 ページ)

政策名	3 誰もが等しく、生涯輝き続けるために。(人権・協働・文化)
施策名	15 生涯学習とスポーツ活動の充実

★ 目指す姿

いつでも、どこでも、誰でも、楽しく生涯学習やスポーツに取り組むことができる環境が整っている。



■ 施策の主な取り組み

① 生涯学習機会の充実

「いつでも、どこでも、誰でも」学べる生涯学習社会の実現に向けて、多様な講座を開催するなど学習できる機会と場の充実を図るとともに、成果を生かせる場づくりを行います。併せて生涯学習関係団体の育成・交流を促進します。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値			
				R6	R10	R14	
中央公民館利用率	%	年間稼働枠数/年間利用可能枠数	32.2	35	35	35	
中央公民館利用者数	人	中央公民館の利用者数	69,098	70,000	72,000	74,000	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合戦略
①-1	生涯学習機会提供事業	芸術鑑賞会、生涯学習講演会等の各種講座を開催します。また、生涯学習関係団体の育成・交流の環境づくりを行います。	●

前年度実績値 (R5)	今年度の進捗					担当部署
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成率 (R6年度比)		
28	35	27	30	85.7%		教育部 生涯学習課
50,457	70,000	22,674	55,221	78.9%		教育部 生涯学習課

② スポーツ活動の充実

地域のスポーツ・レクリエーション関係団体等の多様な主体と協働し、スポーツできる機会と場の充実を図るとともに、総合体育館、健民グラウンド等のスポーツ施設の利用を促進します。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値			
				R6	R10	R14	
社会体育施設利用率	%	年間稼働枠数/年間利用可能枠数	48.7	51	51	51	
社会体育施設利用者数	人	社会体育施設の利用者数	181,146	220,000	230,000	240,000	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合戦略
②-1	スポーツ活動支援事業	さまざまなスポーツ・レクリエーション教室、イベント等を過年、開催します。また、研修会等の開催によりスポーツ・レクリエーション関係団体の育成を支援します。	●

前年度実績値 (R5)	今年度の進捗					担当部署
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成率 (R6年度比)		
54.3	51	51.3	52	102.0%		教育部 生涯学習課
229,940	220,000	106,956	213,523	97.1%		教育部 生涯学習課

③ 図書館機能の充実

市民が幅広い知識や情報を得て、心豊かでいきいきとした人生を送るため、図書館資料や情報の提供だけでなく、学習や活動の場の提供等も行いながら、読書の普及啓発と図書館の利用促進を図り、地域の拠点となる図書館づくりを進めます。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値			
				R6	R10	R14	
蔵書回転率	回	年間貸出冊数/蔵書冊数(蔵書1冊当たりの貸出回数)	1.7	1.8	1.9	2.0	
市民図書館来館者数	人	市民図書館の来館者数	—	154,000	159,000	168,000	

■ 実施する主な事業

No.	名称	概要	総合戦略
③-1	資料情報提供事業	図書・視聴覚資料等の資料や情報を収集・保存し、提供します。また、図書館の利用が困難な方等には、読書サポート等のサービスの充実を図るとともに、電子書籍の充実や移動図書館車「がっくろ号」の巡回等により、利用環境の整備を推進します。	●
③-2	読書普及活動事業	図書館ではお話し会や読み聞かせ会等を開催するほか、学校・幼稚園・保育所等を訪問し、ブックトークやお話し会等を行います。また、各種講座、さまざまな展示イベントを開催します。	●

前年度実績値 (R5)	今年度の進捗					担当部署
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成率 (R6年度比)		
1.6	1.8	0.8	1.6	88.9%		教育部 市民図書館
186,044	187,000	98,984	186,042	99.5%		教育部 市民図書館

■ 実施する主な事業の評価

No.	事業名	今年度の事業評価	今後の方向性			担当部署
今年度の事業実施計画		実績と課題	担当課 評価 (A/B/C)	3視点 必要性 有効性 効率性	所管判定 成果の方向性 コストの方向性	
①-1	生涯学習機会提供事業	<p>①夏のかしばアカデミー 【実績】 講師募集は定員の30枠を超える応募があり、最終は増枠し38講座を実施。また今回課外授業として2講座実施し、合計40講座を開催した。受講生は、未就学児から80歳代まで計717人の申込みがあり、当日は計562人の参加があった。</p> <p>【課題】 実施後のアンケートでは多くの方に満足いただけており、「定期的に何回も主催してほしい。」「とても魅力的な講座が多くあって参加できて楽しかったです」などの意見があり、幅広い層の人々に学びについて考えてもらう機会になったと評価する。また講師も自身の学びを活かす機会になり、生涯学習基本計画の目指す、学びの場、学びたことを活かす機会の創出につながったと評価する。</p> <p>昨年から課題でもあるが、実施までにプロセスに多くの労力がかり、職員負担が大変なので、引き続き職員の負担軽減について改善していきたい。</p> <p>②家庭教育支援 【実績】 6学級中4学級から「社会教育関係団体活動事業補助金」の申請あり、また年4回の役員会(うち1回は補助金説明会)、3回の合同研修会を開催。</p> <p>【課題】 各学級生が減っており、存続が難しいまたは存続不可となった学級が半分を占めている。今後学級を維持していくための学級生募集及び継続しやすい活動方法など検討していく必要がある。また、合同研修会のテーマ設定においても、現状のニーズにあった内容設定を考慮する必要がある。</p> <p>③社会教育関係団体活動事業補助金 【実績】 「高齢者学級」1学級および上述の「家庭教育学級」4学級より申請があり執行。その他社会教育関係団体からは3団体の申請があり、計8件の申請あり。</p> <p>【課題】 若年層に比べると、社会教育関係団体からの申請が増加した。様々な社会教育関係団体が活用できる補助制度となっているため、多くの団体に活用いただくために、今後も周知が重要である。</p> <p>④社会教育委員 【実績】 ・社会教育委員会は5月と12月と3月に開催し、社会教育事業の計画や経過について委員から様々な見地から意見をいただいた。 また各種研修にも委員に参加いただき、他地方自治団体等からの参加者と特色ある取り組みについて意見交換・情報共有を通して見識を深めていただいた。</p>	A	67	現状維持	教育部 生涯学習課
・夏のかしばアカデミー 市民同士で得意なことを教えあう講座を8/25に初開催。39講座を中央公民館と総合体育館にて1日で実施。5月講師募集、7月受講生募集、8月開催。 ・家庭教育支援 市内各小校の家庭教育支援生の補助金手続や研修等を行う。4月学級生募集を行い、3月3日の役員会及び合同研修会を実施。 ・社会教育学級及び市民社会教育 社会教育学級及び市内社会教育関連団体に対する補助金支給を行う。 ・社会教育委員会議 第3回社会教育委員会議を開催し、市の社会教育に対する意見をもらう。また各種研修会、県関連行事の委員との調整や参加を行う。		72	77	現状維持		

②-1	スポーツ活動支援事業	<p>○スポーツ推進委員 【実績】 各種研修への参加他、ニュースポーツデイの実施。また昨年度に引き続き放課後子ども教室への派遣事業を行い、4小学校に出向きの放課後の子どもたちに、体を動かすことの楽しさを知ってもらう体験事業を行った。</p> <p>【課題】 今年さらに地域へ出向き、子どもからお年寄りまで、体を動かすことのきっかけ作りを広げていく。</p> <p>○ニュースポーツデー 【実績】 スリッパや、キンボール、軽スポーツなどあらゆる世代が気軽に進めるニュースポーツが体験イベントを開催。定員数を上回る申し込みがあり、128名の参加があった。アンケートにおいても「満足」という回答が多く、中には「中度的な障害の子どもも楽しめた」という意見もあり、多様な方に体を動かしてもらうきっかけとなった。</p> <p>【課題】 定員を上回る応募があり、すべての方の希望に応えられていない。</p>	A	85	拡充	<p>【成果の方向性】 ・スポーツ推進委員事業については、昨年度より地域でのスポーツ普及を目指し、地域への派遣事業を行っており、好評である。引き続き、地域への派遣事業の制度化を行い、スポーツ普及を図っていく。</p> <p>・各スポーツイベントについては、競技力の向上や、スポーツを行う機会や機運の拡大のため、事業を拡大し実施しているが、協定を大綱に上回る申込があり、スポーツに対する需要の高さがうかがえた。引き続き、より多くの方にスポーツを行う機会を創出するため、全体の事業としては拡充する方向である。</p> <p>・スポーツに関する需要は非常に高いため、適切な指定管理事業及び改修・修繕・備品購入により満足度を高め、利用環境の向上を図る。</p> <p>【コストの方向性】 ・体育施設については、順次長寿命化改修等を実施してきたことから、今後コストについては削減する方向である。指定管理料については、コスト維持となる。スポーツイベント事業については、需要の高さに応えるため、コスト増の方向性である。</p>	教育部 生涯学習課
		<p>○市町村対抗子ども駅伝 【実績】 これまで市マラソン大会にて選考を行っていたが、昨年度に引き続き今年度も選考会を2回実施し、8名のランナー一選出した。 1月・3月にかけて練習会を実施。</p> <p>【課題】 選考会に参加し、香芝市の駅伝チームの代表になりたいと思える子どもたちの盛り起こしが必要。</p> <p>○かしばスポーツweeeeeeek 【実績】 7月に奈良県を拠点として活動するBリーグクラブであるパンビジャス奈良の現役選手・コーチ・アナバザーが、実技をメインとして子どもたちにバスケットボールを教える教室を開催した。定員60名のところ199名の応募があったため、参加可能定員数を100名へ拡大し(最終のシュート大会のみ)、当日は75名の参加があった。</p> <p>9月に奈良県初のリーグクラブである奈良クラブの現役選手・コーチが実技をメインとして子どもたちにサッカーを教える教室を開催した定員60名のところ143名の応募があり、大満ちであった。</p> <p>10月に、スポーツ活動に馴染みのない市民にも参加しやすいスポーツアトラクション事業と体力測定会を開催した。定員を大幅に超える 名の申込みがあり、施設では36人が参加した。子どもから高齢者まで非常に幅広い市民が、ストラックアウトやバドミントン、スラックライン等様々なアトラクションを体験した。本事業は、企業版ふるさと納税およびスポーツ振興くじ助成金を活用し実施しており、財政的負担をしながら、多くの方に満足度の高い行事となっているため、今後も継続して実施していきたい。</p> <p>【課題】 参加者の多さから関心の高さがうかがえた反面、来年度以降も継続、また2回開催等拡大した開催の検討が必要である。</p> <p>○施設改修 【実績】 北部地域体育館の長寿命化改修工事及び外部トイレ洋式化工事は10月末に竣工し、11月より快適な環境で利用いただいております。好評である。また総合体育館観客席正面入口前修繕工事も完了。トイレ都れ・雑居などの危険箇所を改修し、安全な環境を提供できている。</p> <p>【課題】 特になし</p>					
		<p>・スポーツ推進委員 委員会を年3回程度招集し、今年度事業について協議する。今年度は社会体育振興モデル市町村となることから、地域でのスポーツ普及活動を行う。</p> <p>・市町村対抗子ども駅伝 駅伝に切り、11・12月選考会を実施。3月の本番に向け、スポーツ協会協力のもと、練習会を開催する。</p> <p>・ニュースポーツデー 2月頃、スポーツ推進員協力のもと、ニュースポーツ、軽スポーツを集めたイベントを市民向けに実施。</p> <p>・かしばスポーツweeeeeeek スポーツ等の体を動かす体験ができるイベントを総称してかしばスポーツweeeeeeekとし、子どもの競技能力向上のためのスポーツ教室として7/20にバスケットボール教室、9/23にサッカー教室を開催し、10/1日には親子で体を動かすことを楽しむイベントや体力測定会を開催する。また指定管理者と連携し、その他スポーツイベントを順次行う。</p> <p>・施設改修 北部地域体育館の長寿命化改修工事及び外部トイレ洋式化工事、また総合体育館観客席正面入口前修繕工事を実施。</p>					
③-1	資料情報提供事業	<p>【実績】 今年度も、継続して、市民図書館の蔵書更新を行い、電子図書館では、児童書読み放題パックを3種類導入した。市民図書館の蔵書更新数は、概ね例年通りとなった。</p> <p>・図書館システムの更新を11月にけい、LINEの画面と図書館のWebサービスが利用できる「LINE連携」や読書記録が可能な「My本棚」等、Webでのサービスを中心に新機能を追加した。「LINE連携」開始に伴い開設した市民図書館公式LINEアカウントの登録数は、開始から3月で400人を超えた。</p> <p>・「リアフリーサービス」は、高齢の登録者が増加傾向にあり、登録者の貸出数も増加した。</p> <p>【課題】 ・蔵書更新は継続的に行っているが、重慶の狭小化により、更新に支障をきたすようになってきた。これが利用減少の要因の一つともいえるので、利用頻度が低下した図書の新規的な登録が必要である。</p> <p>・電子図書館では、コンテンツの回転率は高水準を維持しているが、利用数が減少している。コンテンツの定期的な購入と特集のメンテナンス、イベント等を実施することで、電子図書館の周知と利用の向上を図る必要がある。</p>	B	90	現状維持	<p>【成果の方向性】 ・昨年度、蔵書更新を進めた結果、児童書の貸出冊数が対前年度比で4%増加した。しかし、人口当たりの目安とされる新野市の6分の1であり、今後も市民に新鮮な情報を提供するため、継続的に蔵書更新を進めていく必要がある。</p> <p>・電子図書館では、読み放題コンテンツや音声コンテンツを中心に資料整備を行ったところ、閲覧回数が増加する結果となった。一般向けでは、読書(リアフリー)を推進したものを中心に入れたが、利用者が減少傾向にあり、利用が見込まれるものを厳選していくことで、利用率の向上につなげていく。</p> <p>・読書(リアフリー)事業では、わずかであるが、登録者が増加し、サービス図書館を活用して資料提供を行っている。引き続き、機会を捉えて周知を図っていく。</p> <p>【コストの方向性】 ・現在、既にカウンター業務やブックポスト回収等の業務を委託しているが、昨今の人件費や物価高騰によりコストは増加傾向にある。委託業務の内容を精査し、その上昇幅の抑制に努めるが、コストの上昇は避けられないことからコストの方向性を拡大とする。</p>	教育部 市民図書館
		<p>・図書館資料や電子書籍の充実 ・図書館システムの更新による図書館利用環境の整備 ・読書(リアフリー)事業の推進</p>					
		<p>・児童向けに定例行事では、「えほんたいむ」の平均参加者数が前年度よりも増加したが、「おはなし会」は年度後半に参加者数が減少し、平均参加者数も前年より減少した。</p> <p>・学校園との連携では、図書館見学・学級訪問(ブックマーク・おはなし会)とも、昨年度よりも増加した。また、「絵の本のわらわ(絵本等の読み聞かせ活動)」を実施する施設が昨年度よりも増え、それに伴い、必要な図書や読書台の貸出数も増加した。</p> <p>【課題】 ・「えほんたいむ」について、読み手のボランティア不足等もあり、開催日数を減らしたが、元に戻して欲しいとの声もあるため、読み手の確保が課題である。また、参加者が減少している「おはなし会」は、多くの市民が参加している時間帯に開催時間を変更することで参加者数の増加を図っていく必要がある。</p>					
③-2	読書普及活動事業	<p>【実績】 ・児童向けに定例行事では、「えほんたいむ」の平均参加者数が前年度よりも増加したが、「おはなし会」は年度後半に参加者数が減少し、平均参加者数も前年より減少した。</p> <p>・学校園との連携では、図書館見学・学級訪問(ブックマーク・おはなし会)とも、昨年度よりも増加した。また、「絵の本のわらわ(絵本等の読み聞かせ活動)」を実施する施設が昨年度よりも増え、それに伴い、必要な図書や読書台の貸出数も増加した。</p> <p>【課題】 ・「えほんたいむ」について、読み手のボランティア不足等もあり、開催日数を減らしたが、元に戻して欲しいとの声もあるため、読み手の確保が課題である。また、参加者が減少している「おはなし会」は、多くの市民が参加している時間帯に開催時間を変更することで参加者数の増加を図っていく必要がある。</p>	B	80	現状維持	<p>【成果の方向性】 ・児童向けに定例行事平均参加者数は昨年度より増加傾向にある。一般向けの講座等のイベントについては、内容を厳選していることから、全体の参加者数が減少傾向にあるが、ボランティアとして活動される方の増加等のイベント参加者数だけでは測れない効果が出ていることから、一定の成果があったと考えており、継続して実施する。</p> <p>・読書、絵本を軸とした読書活動は利用が順調に伸び、活動の場を拡大している。また、市立小中学校への団体貸出冊数や学級訪問依頼件数も堅調に推移しており、各校の図書館担当者や学校司書の連携を強化することで、引き続き、身近に本がある環境を整備していく。</p> <p>・11月より稼働予定の新システムの新機能である読書推進機能やLINE連携を新たな材料とし、市民図書館ホームページを情報発信ツールとして積極的に活用する。</p> <p>【コストの方向性】 ・ボランティアなどの連携協力や内容を厳選して事業を実施していることから、更なる効率化は困難であり、現状維持とした。</p>	教育部 市民図書館
		<p>・各種イベントや図書のテーマ展示の実施 ・講座開催によるボランティア等の養成と資質向上 ・学校園等との連携による子ども読書推進事業の実施 ・広報やホームページ等での図書館情報の発信</p>					
		<p>・児童向けに定例行事では、「えほんたいむ」の平均参加者数が前年度よりも増加したが、「おはなし会」は年度後半に参加者数が減少し、平均参加者数も前年より減少した。</p> <p>・学校園との連携では、図書館見学・学級訪問(ブックマーク・おはなし会)とも、昨年度よりも増加した。また、「絵の本のわらわ(絵本等の読み聞かせ活動)」を実施する施設が昨年度よりも増え、それに伴い、必要な図書や読書台の貸出数も増加した。</p> <p>【課題】 ・「えほんたいむ」について、読み手のボランティア不足等もあり、開催日数を減らしたが、元に戻して欲しいとの声もあるため、読み手の確保が課題である。また、参加者が減少している「おはなし会」は、多くの市民が参加している時間帯に開催時間を変更することで参加者数の増加を図っていく必要がある。</p>					

施策の方向性(改善策)

次年度の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿である「いつでも、どこでも、誰でも、楽しく生涯学習やスポーツに取り組むことができる環境を整える」ことを実現するため、生涯学習基本計画の基本目標である「学び」機会及び「学び」機会を「活かす」機会の提供、そして学び環境の充実を図っていく。 ・図書館の新機軸を推進し、多くの市民が気軽に市民図書館を利用できるような環境を整備するとともに、学校園や福祉施設等との連携の継続、寄附図書館等を活用したサービスポイントの設置、電子図書館サービスの実施により身近に読書ができる環境の創出を図り、図書館利用につなげていく。
---------	--



担当課評価	
A	2 事業
B	2 事業
C	0 事業



成果の方向性		コストの方向性	
拡充	1 事業	拡大	2 事業
現状維持	3 事業	現状維持	2 事業
縮小	0 事業	縮小	0 事業
休止	0 事業	休止	0 事業

令和6年度 行政評価 進捗管理シート

(第5次総合計画 前期基本計画 66-68 ページ)

政策名	3 誰もが等しく、生涯輝き続けるために。(人権・協働・文化)
施策名	16 歴史文化財の保存と継承・展開

★ 目指す姿

気軽に文化財について学習できる環境が整備されており、文化財を通じて、まちに愛着と誇りが持てている。



■ 施策の主な取り組み

① 二上山博物館機能の充実

地域の歴史・文化を学習する拠点として、また情報発信の拠点として、二上山博物館の機能を充実させます。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値		
				R6	R10	R14
博物館入館者数	人	二上山博物館の入館者数	7,479	8,000	8,500	9,000
博学連携参加者数	人	博学連携参加者数	758	800	850	900

■ 実施する主な事業

No	名称	概要	総合戦略
①-1	博物館活性化事業	博物館DX化推進事業により、誰もが楽しく学び、知的体験を享受できるデジタルミュージアムの実現を目指します。また、特別展や講演会・講座の開催、学校との連携による博学連携教育の推進等、多様な年齢層へ本市の歴史文化財の魅力向上に繋げる事業を展開します。	●

(R5)	今年度の進捗				担当所管
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成度 (R6年度比)	
8,277	10,000	4,933	8,774	87.7%	教育部 文化財課
1,359	1,400	1,798	1,921	137.2%	教育部 文化財課

② 文化財の保護・啓発

文化財を後世に保存・継承するために必要な措置を講ずるとともに、文化財の魅力を発信して、活用及び啓発を行います。

◆ 指標の達成状況

指標名	単位	算出方法(指標説明)	計画当初 (R1)	目標値		
				R6	R10	R14
指定文化財の件数	件	国・県・市指定文化財の件数(累計)	42	43	44	45
史跡公園利用者数	人	尼寺庵寺跡学習館の利用者数	1,585	1,600	1,650	1,700

■ 実施する主な事業

No	名称	概要	総合戦略
②-1	文化財保護啓発事業	市内にある文化財の基礎資料の収集・蓄積、遺跡の保護等を行います。また、歴史講座やイベントの開催により、文化財・遺跡の活用を図り、広く普及、啓発活動を行います。	●
②-2	市史編集事業	市史編さん委員会委員の人選を行い、編集方針や内容・構成などの市史編纂に伴う基本計画を策定するとともに、執筆編集を行う市史編集委員会の委員の人選を進め、市史編纂に向けての組織体制を整備します。	

(R5)	今年度の進捗				担当所管
	目標値	中間値 (9月末)	実績値 (年度末)	目標達成度 (R6年度比)	
44	44	44	44	100.0%	教育部 文化財課
1,651	1,700	683	1,673	98.4%	教育部 文化財課

■ 実施する主な事業の評価

No		事業名	今年度の事業評価			今後の方向性			担当所管
		今年度の事業実施計画	実績と課題	担当課 評価 (A/B/C)	3視点 必要性 有効性 効率性	所管の方向性			
						方向性の内容(改善策) ※3視点評価の点数(100点満点)が65点以下の視点については、 現状を改善し、高めていくための方策等について記入			
①-1	博物館活性化事業	【実績】 ・特研、企画展等の各種展覧会及び「歴史会、講座等の開催により、地域の魅力ある歴史資源を活用した質の高い学習機会を提供する。 ・博学連携教育(館士学習講座)により、児童・生徒に多様な学習機会を提供し、郷土の歴史への理解と愛着を醸成する。 ・博物館資料等のデジタルアーカイブ化を計画し進め、次代に引き継ぐための保存の措置を講ずるとともに、その成果を積極的に公開し、地域の魅力向上に努める。	【課題】 ・博物館DX化事業において、「視覚」にうったえる博物館としての機能を強化したことにより、利用者の展示内容への理解が深まった。 ・博学連携教育において、地元の園児・児童また生徒の来館者が増え、また、連携事業によって興味を深めた子どもたちが、家族連れで再度来館するなど、市民の郷土の歴史への興味・関心が増加した。 【課題】 ・継続した普及・啓発を図り、再訪者を含めた来館者の増加を図ることが課題である。	A	75	現状維持	【成果の方向性】 ・昨年度に博物館DX化を行い、入館者に対し視覚にうったえる博物館として機能していると考えられる。 ・博学連携においては、地元の幼稚園児や小学校児童に、歴史が伝わるよう、努めている。児童については、事前にオンラインで学習の機会をもち、深く理解してもらえよう努めている。 【コストの方向性】 ・コスト面においては、プロジェクションマッピング等の博物館DX化の維持に向けて、機械の保守点検が拡大する見込みである。	教育部 文化財課	
	文化財保護啓発事業	【実績】 ・歴史文化財を後世に「保存・継承」するため、記録調査をはじめ、指定文化財等の権利管理を適切に実施する。 ・本市の歴史文化財の魅力を発信するため、歴史講座や現地学習講座等を通じて活用し及び発信を図る。 ・「萬城修験日本遺産等」の広域ネットワークによる連携・協力事業を実施し、本市の歴史文化財の活用と活性化を図りつつ、本市への来訪者の誘致、市民参加の促進に努める。	【実績】 ・尼寺庵寺跡史跡公園では博学連携教育や本課主催事業(アドベンチャー教室、市民の歴史講座等)により、認知度が上昇している。 ・文化財保護指導委員会や課員により文化財の巡視活動により指定文化財の破壊・盗難は皆無であった。 ・遺跡の無断掘削による開発は皆無であった。 ・日本遺産「萬城修験」は認定5周年の記念事業として、中央公民館でパネル展を実施し、普及・啓発に努めた。 【課題】 ・市内に所在する文化財を活用した、本市への来訪者の誘致や利用促進の強化を図っていくことが課題である。	A	75	現状維持	【成果の方向性】 ・指定文化財の保護・管理については、保護審議会の助言を得ながら、適切に進める必要があると考えられる。 【コストの方向性】 ・歴史講座や地域学習講座等を開催し、市民に香芝の文化財により興味・関心を持っていただけるように取り組みを進める必要があると考えられる。	教育部 文化財課	
②-2	市史編集事業	【実績】 ・市史編集委員会及び専門部会を設置し、編集事業の組織、体制を整備するとともに、基本方針をとりまとめ実施する。共通した編集方針や調査・研究の方向性等を審議する。 ・大規模な史料館資料の調査及び資料の整理を継続して実施するとともに、大規模及び中規模の調査を実施。市民の基礎的資料かつ、重要な資料と見られ、貴重性を認めて、市史編集委員会の進捗状況と共有し、活用する。	【実績】 ・今年度は、市史編さん委員会を2回開催し、各部会の部会長の選出について審議した。 ・史料室録物師資料を後世に継承していくための調査、保存作業を進め、資料の体系的な整理に努め、整理完了した。 【課題】 ・部会長の選出が難航し、編集委員会の開催に至らなかった。次年度以降、円滑な事業の進捗にむけて速やかに取り組む必要がある。	B	85	拡充	【成果の方向性】 ・来年度以降の本格的な編さん事業に向けて、委員会を開催し、意見のとりまとめをおこなった。 【コストの方向性】 ・成果、コスト共に今後の事業推進の観点から、拡大の方向性が適切と考えられる。 ・市史編さん委員会は、定期的に開催し委員の意見を取り入れながら、スケジュールに沿って進める必要があると考えられる。 ・市史編集委員会では、各部門のことに作業を行い、その中でスケジュール調整を定期的に行い、体制を整備する必要があると考えられる。	教育部 文化財課	

■ 施策の方向性(改善策)

次年度の方向性	
・博物館DX化事業によって整備した博物館について、スポット展等と併せて広報・周知し、利用者のサービス向上を推進する。 ・博物館の展覧会や講演会・講座等を通じて、本市の文化財の普及啓発をおこない、文化財保護についての理解を図る。 ・市史編さん事業の円滑な業務遂行に向けて、必要な委員会を定期的に開催し、事業を進めていく。	

担当課評価	成果の方向性	コストの方向性
A 2 事業	拡充 1 事業	拡大 2 事業
B 1 事業	現状維持 2 事業	現状維持 1 事業
C 0 事業	縮小 0 事業	縮小 0 事業
	休止 0 事業	休止 0 事業